

大震災・復興ニュース(第45報)

平成24年2月23日
 仙台地方振興事務所水産漁港部

1 水産業復旧・復興に向けた対応状況(国及び県全体の動き)

宮城県震災復興実施計画策定

2月6日、県は復旧期に位置付けた平成25年度までの「震災復興実施計画」を定めた。計画では、513事業、総事業費3兆8,079億円の復旧・復興事業に取り組む。

農林水産分野では、漁業経営の共同・協業化支援など130事業(6,378億円)となった。

この実施計画は、県総合計画「宮城の将来ビジョン」(平成19~28年度)の行動計画と合体させて「将来ビジョン・震災復興実施計画」として3月に公表する予定となっている。

宮城県内の水産物の放射性物質測定結果について

宮城県内で採取した水産物について、下記のとおり放射性物質の測定結果をお知らせします。

- 測定年月日 平成24年1月29日~2月21日
- 測定分析機関 宮城県農林水産部、(財)日本冷凍食品検査協会、(財)日本分析センター、いであ(株)
 (株)総合水研究所、(独)水産総合研究センター中央水産研究所
- 測定結果 放射性セシウムは国が定めた暫定規制値を下回り安全性に問題がないことが確認された。
 水産物(漁獲日 平成24年1月26日~2月15日) (単位:ベクレル/kg)

種別	漁獲場所	放射性セシウム	種別	漁獲場所	放射性セシウム
わかめ(養殖)	石巻湾	不検出	マダラ	宮城県沖	4.7
ツナツナギ(イダ)	大須沖	不検出	マダラ(内臓)	宮城県沖	10.6
マコガレイ	志津川湾	不検出	マダラ(卵巣)	宮城県沖	3.9
スケトウダラ	宮城県沖	3.8	スズキ	宮城県沖	5.2
スケトウダラ	宮城県沖	不検出	マコガレイ	宮城県沖	5.0
マガレイ	宮城県沖	9.5	スズキ	宮城県沖	7.9
ヒラメ	宮城県沖	11.1	コタマガイ	宮城県沖	3.8
ミズダコ	宮城県沖	不検出	ヌタウナギ	宮城県沖	不検出
マダラ	宮城県沖	12.7	ヌタウナギ	宮城県沖	不検出
マダラ	宮城県沖	不検出	ヌタウナギ	宮城県沖	不検出
マコガレイ	宮城県沖	不検出	ヌタウナギ	宮城県沖	不検出
マダラ	宮城県沖	9.6	ヌタウナギ	宮城県沖	不検出
アブラツノザメ	宮城県沖	不検出	ヌタウナギ	宮城県沖	不検出
サメガレイ	宮城県沖	不検出	シラウオ	阿武隈川河口	7.6
イラコアナゴ	宮城県沖	0.48	ヨシキリザメ	房総沖	不検出
マダラ(肝臓)	宮城県沖	9.9	メカジキ	房総沖	1.93

食品衛生法の規定に基づく食品中の暫定規制値 放射性セシウム 500ベクレル/kg

2 管内の復興に向けた動き

< 水産漁港部からのお知らせ >

災害復興に向けた打合せ会開催

2月21日(火), 当部会議室において災害復興に向けた打合せ会が開催された。

打合せでは, 共同利用漁船の手続き, 三次補正の今後の進め方, 災害関連事業の進行管理における留意点について当部より説明の後, 漁協・各支所の取り組み状況について報告があった。

各支所からは, 三次補正事業の嵩上げに関する質問, 現在の養殖状況, 漁船の入手見込み, 施設の整備状況などの報告があった。

< トピックス >

東北区水産研究所が成果報告会を開催

2月18日(土), 仙台のアエル21階会議室を会場に東北区水産研究所主催による「東日本大震災の漁業への影響と今後の調査研究」と題する成果報告会が開催された。

報告会では, 東北沖合域・仙台湾の漁場環境及び漁業資源への影響, 三陸沿岸の養殖業及び漁業資源への影響等が報告され, その中で, 松島湾の底質は, 湾口から湾中央では改善しているが湾奥では硫化物やアンモニアが増加していることなどが報告された。



成果報告会の様子

名取川でシロサケ稚魚放流

2月20日(月), 広瀬名取川漁協で人工孵化させたシロサケ稚魚の放流が行われた。これは管内で今シーズン初めての放流となる。

稚魚のサイズは1g前後, 放流数は38万尾余りで, 名取川に放流された。

広瀬名取川漁協に続き, 今週末には白石川漁協でもサケ放流が予定されている。



稚魚放流の様子

桂島漁港内に水温自動測定ブイ設置

2月20日(月), 県水産技術総合センターにより桂島漁港内に水温自動測定ブイが設置されました。

これにより水深1mの水温が毎時自動観測され, データが同センターに送られます。今後この水温データが湾内の各種養殖作業に活用されることが期待されます。



水温ブイ設置の様子